

生活行動パターンによる被ばく線量の変化について

原子力規制庁

1. はじめに

本資料は、「平成 29 年度原子力施設等防災対策等委託費(生活行動パターンを模擬した連続的な空間線量率の測定及び詳細モニタリング結果のマップ化)」事業において、生活行動パターンの違いによって被ばく線量が増加した場合の一例を示すものである。

2. 比較対象および比較結果

(1) 比較対象

富岡町の小良ヶ浜地区内において、同一の建物に居住することを想定した 6 名分の測定結果を対象に比較を行った。

(2) 比較結果

表 1 に、各対象者の生活行動パターン概要および被ばく線量の一覧を示す。同一の建物に居住するパターンでも、生活行動パターンによって被ばく線量が異なった。特に、対象者 ID が 000018 の農業に従事することを想定した対象者において、他のパターンよりも被ばく線量が大きくなった。

表 1 各対象者の生活行動パターン概要および被ばく線量の一覧

| 対象者 ID | 生活行動パターン概要 | 年間の被ばく線量 (mSv) |
|--------|------------|----------------|
| 000002 | 中学校へバス通学 | 2.04 |
| 000010 | 役場へ車で通勤 | 1.60 |
| 000018 | 自宅付近で農作業 | 4.65 |
| 000023 | 田村市へ車で通勤 | 1.56 |
| 000028 | 福島市へ車で通勤 | 1.60 |
| 000033 | 南相馬市へ車で通勤 | 1.60 |

図 1 に、それぞれの対象者の滞在地点ごとの年間の積算線量の比較結果を示す。対象者 ID が 000018 の農業に従事することを想定した対象者において、畑で過ごす間の積算線量が大きいため、それによって他の対象者よりも年間の被ばく線量が大きくなっていることが分かる。

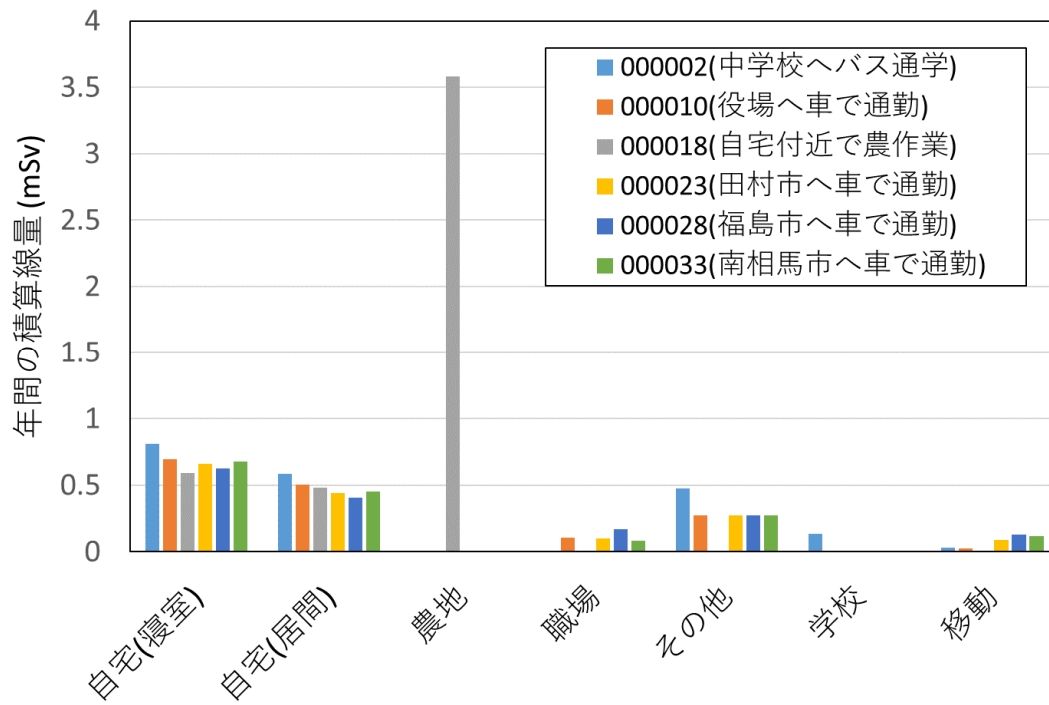


図 1 滞在地点ごとの年間の積算線量の比較結果

以上